

中小企業倒産防止共済制度の現状について

令和6年1月

中小企業庁

1. 中小企業倒産防止共済（経営セーフティ共済）制度の概要

- 中小企業倒産防止共済法（昭和52年法律第84号）に基づき、昭和53年4月に創設された共済制度で、運営主体は（独）中小企業基盤整備機構（申込窓口は、業務委託により商工会・商工会議所、中央会、金融機関等。）。
- **共済契約者は、取引先企業の倒産により売掛金債権の回収が困難となった場合に、自らの連鎖倒産等の事態を防止するため、共済金の貸付を受けられる。**
 - 具体的には、共済契約者は予め掛金を積み立て（月額5千円～20万円、掛金積立限度額800万円）、取引先企業が倒産により売掛金債権が回収困難となった場合には、この回収困難額と積み立てた掛金の10倍のいずれか少ない額を上限に、無担保・無保証人で共済金の貸付けが受けられる。
- 掛金が損金（法人）または必要経費（個人事業）に算入出来る租税特別措置法上の特例があるほか、臨時に資金を必要とする事態が生じた場合、掛金の範囲内で一時貸付金の貸付を受けることが可能。

各種条件

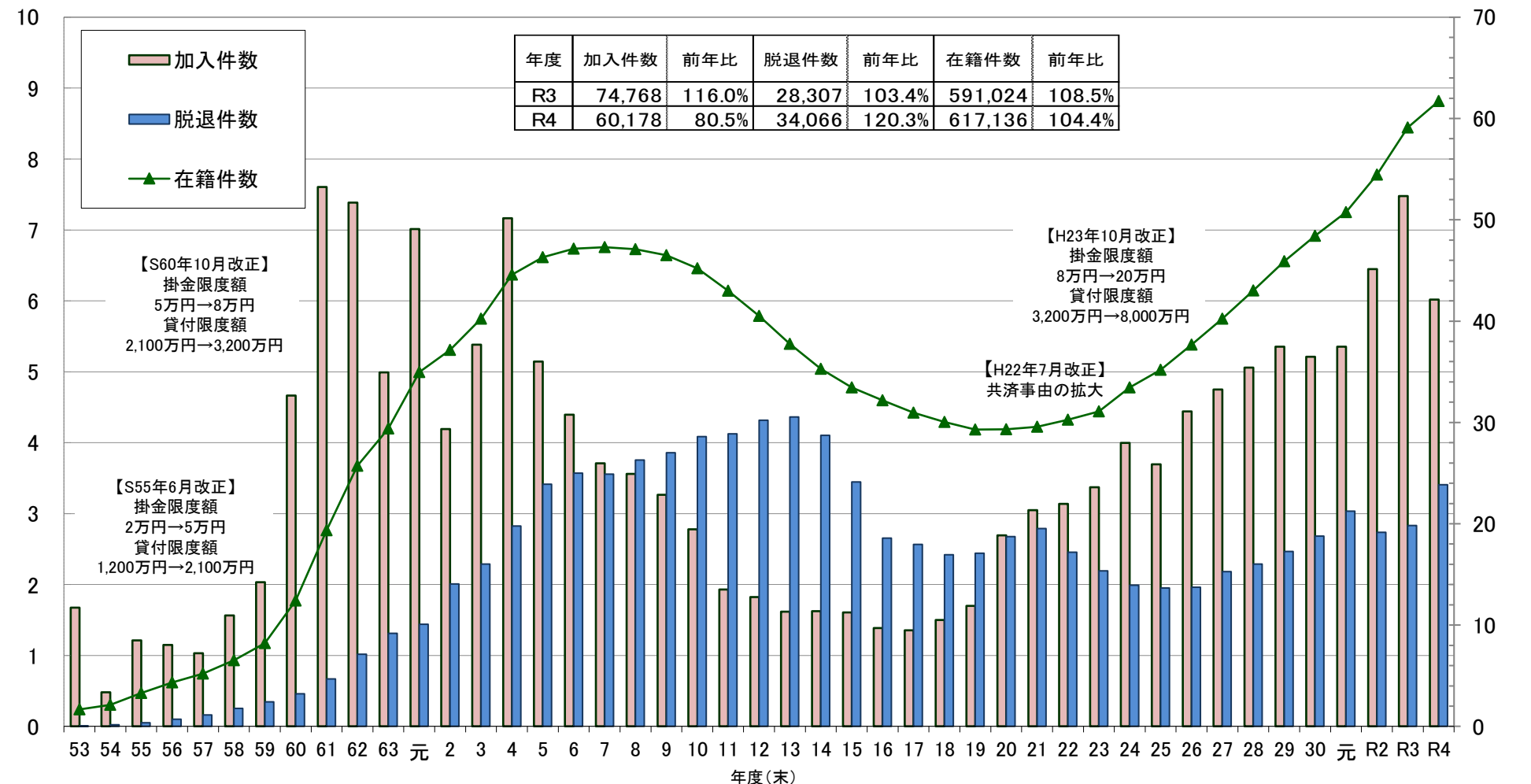
- 加入資格：中小企業者（個人事業主又は会社）
- 掛金月額：5千円～20万円（5千円単位）
- 掛金限度額：800万円
- 貸付限度額：8,000万円
- 貸付条件：無担保、無保証人、無利子（但し、貸付額の1/10を掛金から控除）、いわゆる返済可能性等の金融審査なし
- 共済事由（倒産事由）：
 - ①破産手続、再生手続、更正手続開始、特別清算開始の申し立て（法的整理）、
 - ②手形取引に係る取引停止処分、③電子記録債権に係る取引停止処分 ④弁護士、司法書士が介在する私的整理、
 - ⑤災害による不渡り等
- 貸付期間：5年～7年（貸付額に応じ設定）
- 一時貸付金制度：臨時に資金を必要とする事態が生じた場合、掛金の範囲内で一時貸付金の貸付を受けることが可能

2. 加入・在籍状況

- 在籍件数は、平成19年度末以降は増加を続けており、令和4年度も過去最高を更新。
- 加入件数は、バブル崩壊以降は減少傾向にあったが、平成20年頃を機に増加基調となっている。コロナ禍の令和2年度から4年度は、特に加入件数が増加した。

加入脱退件数(万件)

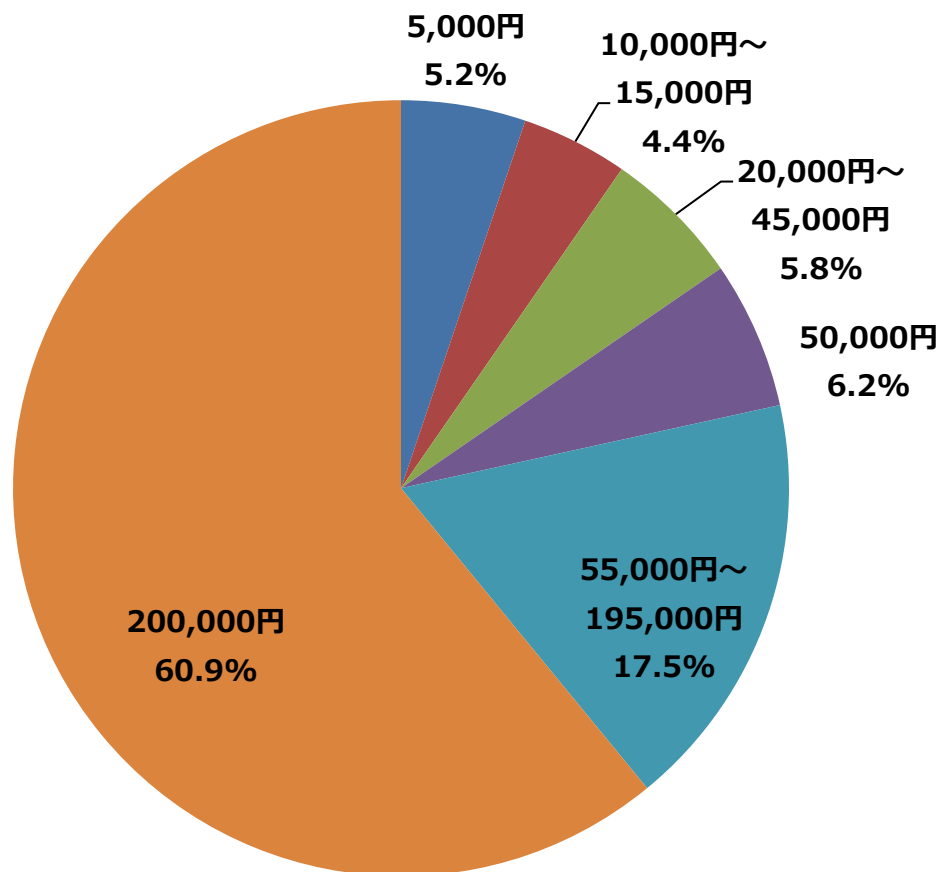
在籍件数(万件)



3. 加入者の月額掛金実績（新規、在籍）

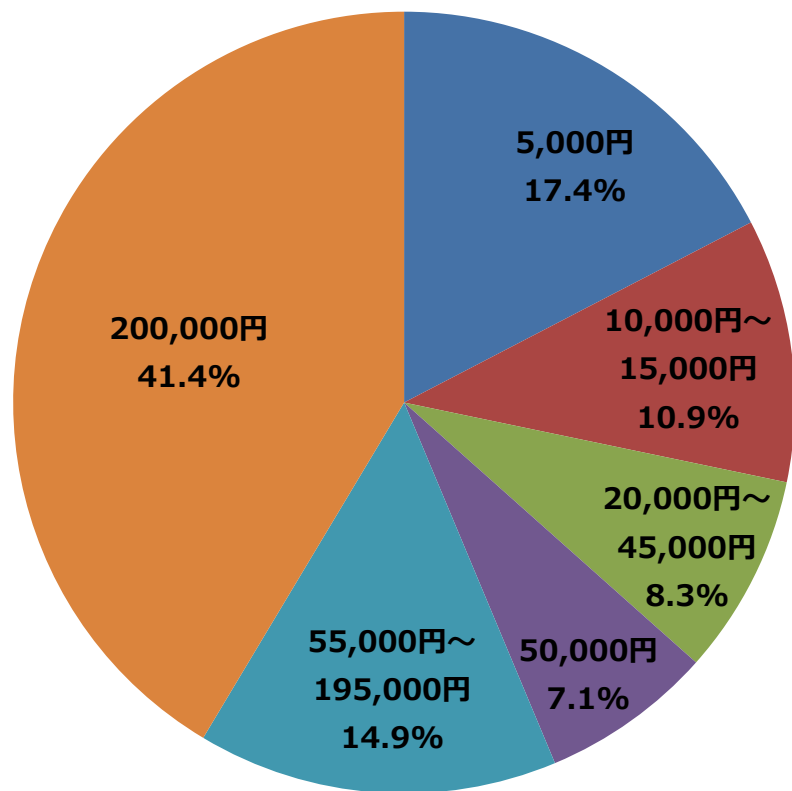
- 令和4年度の新規加入者のうち、月額掛金20万円の加入者が約6割を占める。

単年度新規加入者（令和4年度）



(件数ベース)

在籍者（令和4年度末時点）

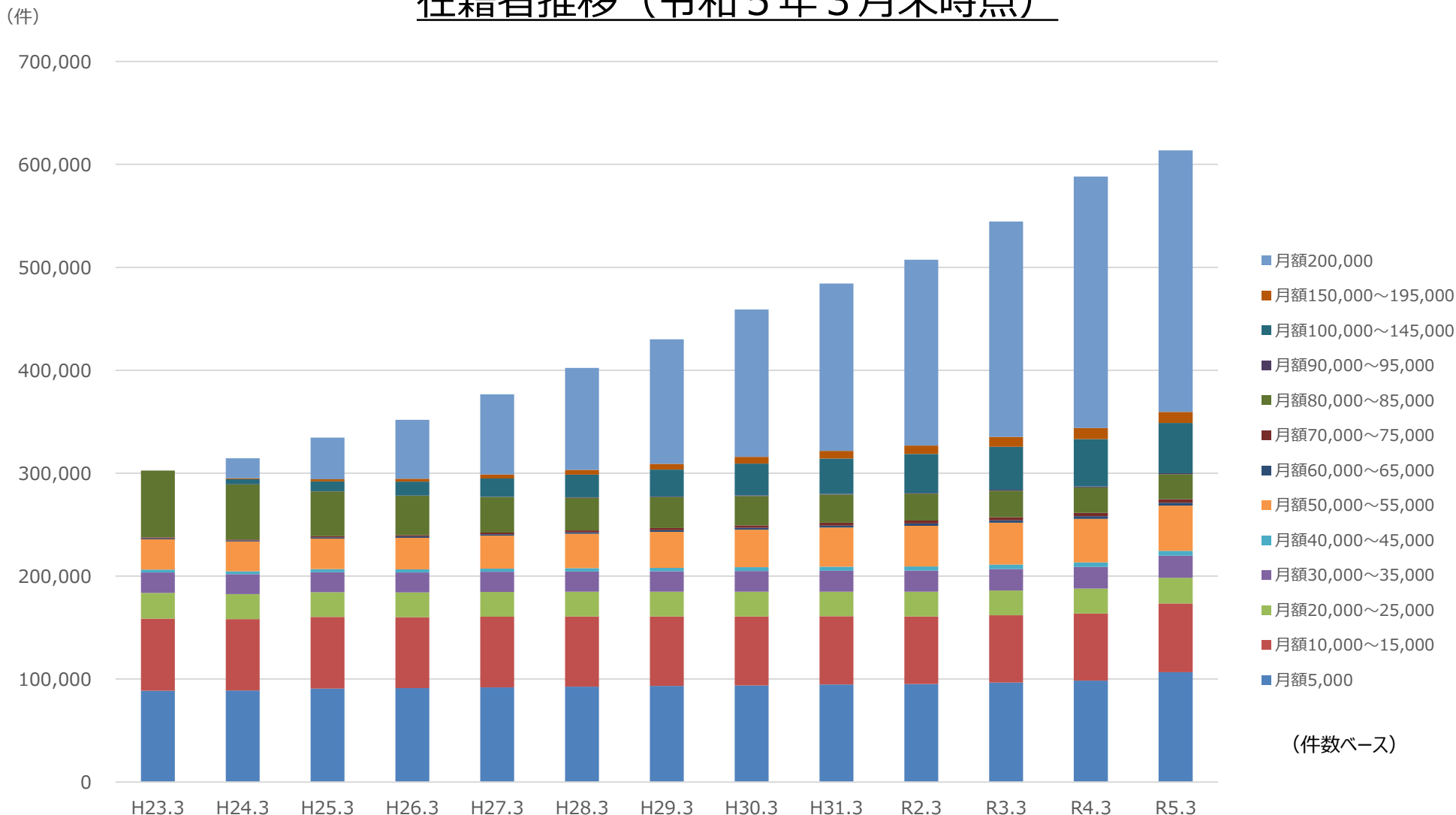


(件数ベース)

【参考】加入者の月額掛金実績（推移）

- 平成23年の改正法施行以降、月額掛金20万円の件数が増加。

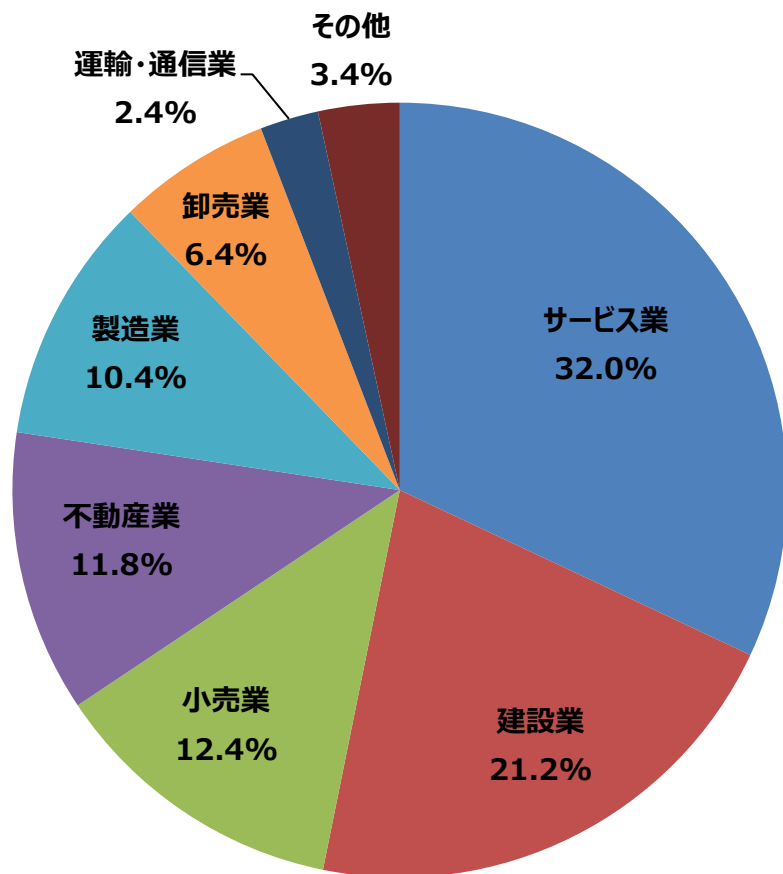
在籍者推移（令和5年3月末時点）



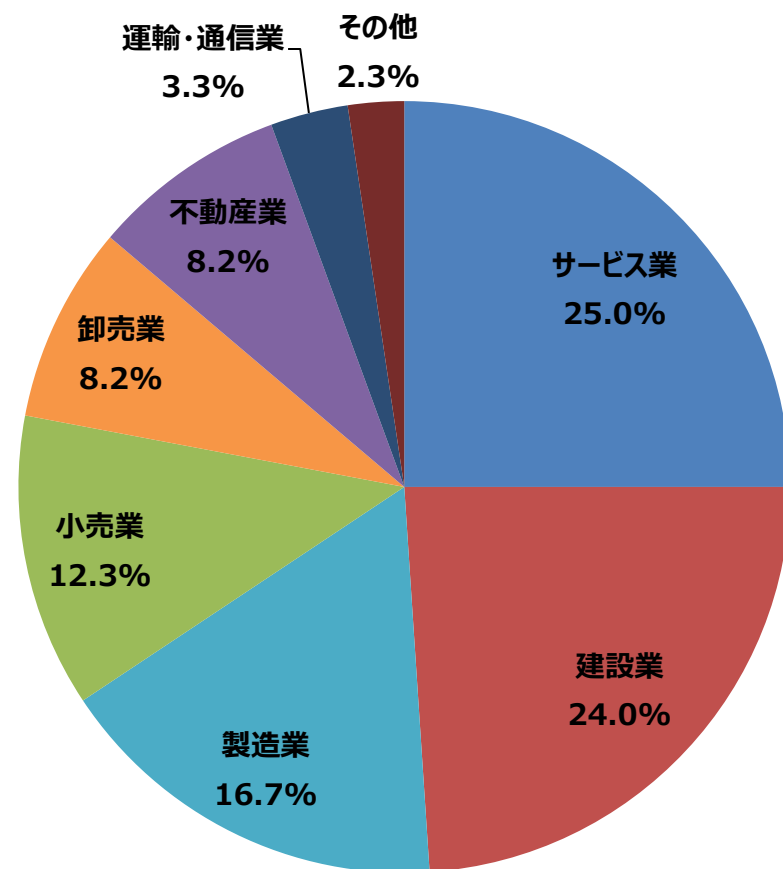
4. 加入状況（業種別）

- 令和4年度を含め近年の新規加入は、サービス業、建設業、小売業が多数。

単年度新規加入者（令和4年度）

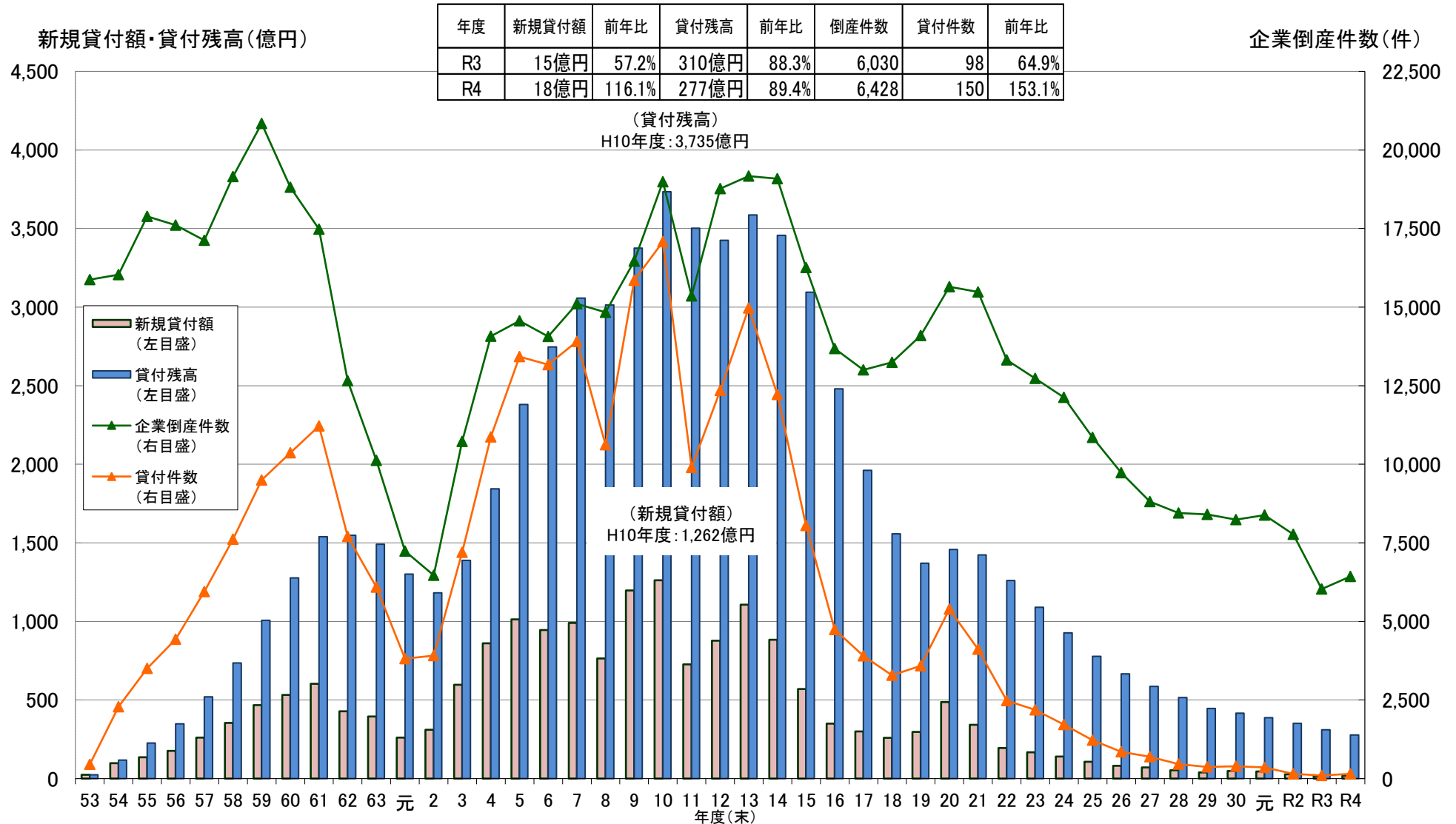


在籍者（令和4年度末時点）



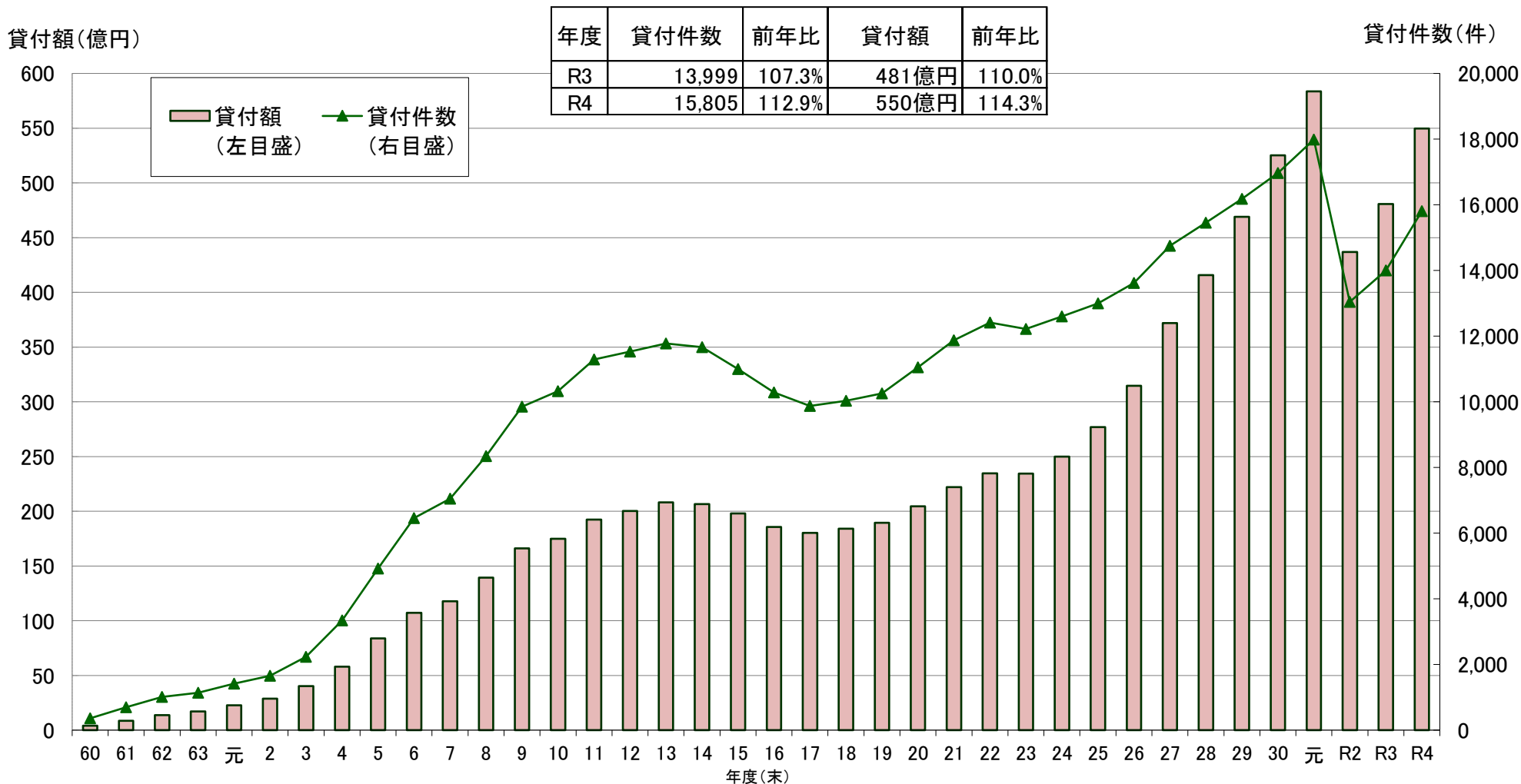
5. 共済金の貸付実績

- 共済金の貸付について、企業倒産件数の増減と新規貸付額の増減は似た動きとなっている。
- 近年では、平成20年度をピークに倒産件数・新規貸付額ともに減少傾向。



6. 一時貸付金の貸付実績

- 平成18年度以降、新規貸付件数、新規貸付金額ともに増加傾向にある。
- 令和2年度には、新型コロナウイルス感染症関連の支援制度が充実した結果、本制度の一時貸付金の利用は減少したが、令和4年度にかけて再び増加傾向にある。



【参考】中小企業倒産防止共済勘定・貸借対照表（令和4年度決算）

＜＜合計＞＞

（単位：百万円）

| 資産の部 | | 負債及び純資産の部 | |
|----------|-----------|------------|-----------|
| 科目 | 金額 | 科目 | 金額 |
| 流動資産 | 1,005,758 | 流動負債 | 115,096 |
| 現金及び預金 | 116,975 | 前受金 | 110,295 |
| 有価証券 | 479,199 | その他 | 4,801 |
| 事業貸付金 | 69,673 | 固定負債 | 2,638,946 |
| 他勘定貸付金 | 308,923 | 倒産防止共済基金 | 2,638,446 |
| その他 | 37,670 | その他 | 499 |
| 貸倒引当金(△) | △ 6,684 | 法令に基づく引当金等 | 69,093 |
| 固定資産 | 1,864,987 | 完済手当金準備基金 | 55,093 |
| 有形固定資産 | 87 | 異常危険準備基金 | 14,000 |
| 無形固定資産 | 3,471 | (負債合計) | 2,823,137 |
| 投資その他の資産 | 1,861,428 | 資本金 | 47,421 |
| 投資有価証券 | 1,860,878 | 資本剰余金 | △ 100 |
| 破産更生債権等 | 10,593 | 利益剰余金 | 287 |
| その他 | 550 | (純資産合計) | 47,608 |
| 貸倒引当金(△) | △ 10,593 | | |
| 資産合計 | 2,870,745 | 負債及び純資産合計 | 2,870,745 |

(注1) 中小企業倒産防止共済勘定における各経理間の内部取引については、相殺消去しております。

(注2) 単位未満を切捨てておりますので、計欄において一致しないところがあります。

＜＜基金経理＞＞

- 平成23年度の改正法施行以降、加入者増加及び上限額（20万円）での新規加入の増加に伴い、貸借表の規模が拡大。（資産額2兆8,071億円、昨年度2兆5,795億円）
- 貸倒引当金は、貸付金残高の減少により、173億円（昨年度は180億円）と減少。
- 前納掛金にあたる前受金は、1,103億円（昨年度1,256億円）と減少。
- 倒産防止共済基金は、2兆6,384億円（昨年度2兆3,917億円）と増加。

＜＜基金経理＞＞

（単位：百万円）

| 資産の部 | | 負債及び純資産の部 | |
|----------|-----------|------------|-----------|
| 科目 | 金額 | 科目 | 金額 |
| 流動資産 | 983,025 | 流動負債 | 113,563 |
| 現金及び預金 | 105,877 | 前受金 | 110,295 |
| 有価証券 | 465,000 | その他 | 3,267 |
| 事業貸付金 | 69,673 | 固定負債 | 2,638,446 |
| 他勘定貸付金 | 308,923 | 倒産防止共済基金 | 2,638,446 |
| その他 | 40,234 | | |
| 貸倒引当金(△) | △ 6,684 | 法令に基づく引当金等 | 55,093 |
| 固定資産 | 1,824,077 | 完済手当金準備基金 | 55,093 |
| 投資その他の資産 | 1,824,077 | | |
| 投資有価証券 | 1,824,077 | | |
| 破産更生債権等 | 10,593 | | |
| 貸倒引当金(△) | △ 10,593 | | |
| 資産合計 | 2,807,103 | 負債及び純資産合計 | 2,807,103 |

＜＜業務等経理＞＞

（単位：百万円）

| 資産の部 | | 負債及び純資産の部 | |
|----------|--------|------------|--------|
| 科目 | 金額 | 科目 | 金額 |
| 流動資産 | 26,357 | 流動負債 | 5,157 |
| 現金及び預金 | 11,098 | その他 | 5,157 |
| 有価証券 | 14,199 | 固定負債 | 499 |
| その他 | 1,059 | その他 | 499 |
| 固定資産 | 40,909 | 法令に基づく引当金等 | 14,000 |
| 有形固定資産 | 87 | 異常危険準備基金 | 14,000 |
| 無形固定資産 | 3,471 | (負債合計) | 19,658 |
| 投資その他の資産 | 37,350 | 資本金 | 47,421 |
| 投資有価証券 | 36,800 | 資本剰余金 | △ 100 |
| その他 | 550 | 利益剰余金 | 287 |
| | | (純資産合計) | 47,608 |
| 資産合計 | 67,266 | 負債及び純資産合計 | 67,266 |

【参考】中小企業倒産防止共済勘定・損益計算書（令和4年度決算）

＜合計＞ (単位:百万円)

| 費用の部 | | 収益の部 | |
|--------------|---------|-----------------|---------|
| 科目 | 金額 | 科目 | 金額 |
| 経常費用 | 425,124 | 経常収益 | 425,283 |
| 経営環境変化対応業務費 | 424,806 | 運営費交付金収益 | 880 |
| 解約手当金 | 170,216 | 貸付金利息収入 | 1,690 |
| 貸倒引当金繰入 | 1,283 | 共済事業掛金等収入 | 418,670 |
| 倒産防止共済基金繰入 | 246,766 | 資産運用収入 | 3,358 |
| 前納減額金 | 1,249 | その他 | 684 |
| その他 | 5,291 | | |
| 一般管理費 | 317 | 臨時利益 | 6 |
| 財務費用 | 0 | 償却債権取立益 | 6 |
| 臨時損失 | 324 | | |
| 完済手当金準備基金繰入 | 323 | | |
| 異常危険準備基金繰入 | 1 | 前中期目標期間繰越積立金取崩額 | 36 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 0 | | |
| 当期総損失 | △ 123 | | |
| 合計 | 425,326 | 合計 | 425,326 |

(注1) 中小企業倒産防止共済勘定における各経理間の内部取引については、相殺消去しております。

(注2) 単位未満を切捨てておりますので、計欄において一致しないところがあります。

＜＜基金経理＞＞

- 平成23年度の改正法施行以降、加入者増加及び上限額（20万円）での新規加入の増加に伴い、共済事業掛金等収入は、4,187億円（昨年度4,000億円）と増加。
- 資産運用収入は、運用可能資産の増加及び決算利回りの改善により、33.6億円（昨年度22.7億円）と増加。
- 前納減額金は、在籍者の増加により、12.5億円（昨年度11.6億円）と増加。

＜基金経理＞ (単位:百万円)

| 費用の部 | | 収益の部 | |
|-------------|---------|-----------|---------|
| 科目 | 金額 | 科目 | 金額 |
| 経常費用 | 423,494 | 経常収益 | 423,811 |
| 経営環境変化対応業務費 | 423,494 | 貸付金利息収入 | 1,690 |
| 解約手当金 | 170,216 | 共済事業掛金等収入 | 418,670 |
| 貸倒引当金繰入 | 1,283 | 資産運用収入 | 3,358 |
| 倒産防止共済基金繰入 | 246,766 | その他 | 92 |
| 前納減額金 | 1,249 | | |
| 業務等経理へ繰入 | 3,427 | 臨時利益 | 6 |
| その他 | 551 | 償却債権取立益 | 6 |
| 臨時損失 | 323 | | |
| 完済手当金準備基金繰入 | 323 | | |
| 当期総利益 | - | | |
| 合計 | 423,817 | 合計 | 423,817 |

＜業務等経理＞ (単位:百万円)

| 費用の部 | | 収益の部 | |
|--------------|-------|-----------------|-------|
| 科目 | 金額 | 科目 | 金額 |
| 経常費用 | 5,057 | 経常収益 | 4,899 |
| 経営環境変化対応業務費 | 4,739 | 運営費交付金収益 | 880 |
| その他 | 4,739 | 基金経理より受入 | 3,427 |
| 一般管理費 | 317 | その他 | 591 |
| 財務費用 | 0 | | |
| 臨時損失 | 1 | 臨時利益 | - |
| 異常危険準備基金繰入 | 1 | | |
| 法人税、住民税及び事業税 | 0 | 前中期目標期間繰越積立金取崩額 | 36 |
| 当期総損失 | △ 123 | | |
| 合計 | 4,935 | 合計 | 4,935 |